

2007. 6. 27 第27号



地域づくりコミュニケーション
— 農村振興メールマガジン —

農林水産省農村振興局



◆◇ 目次 ◇◆

【 農村振興支援情報 】

■ 美しい農村を守り育てるために

◇農山漁村活性化プロジェクト支援交付金

◇農地・水・環境保全向上対策の取組

◇農村におけるソーシャルキャピタル研究会

◇第9回日本水大賞農林水産大臣賞受賞地区

◇平成19年度「田園自然再生活動コンクール」の募集

■ 地域の実態に応じた多様な取組

◇ながくて食と農の広場「あぐりん村」

◇「親子等農業体験交流教室 ～“かやぶきの里 美山”を訪ねて～」

■ 報告&お知らせ

◇「景観の日」 全国大会が開催されました！

◇中山間地域フォーラム設立1周年記念シンポジウム開催します

■ 美しい農村を守り育てるために

◇農山漁村活性化プロジェクト支援交付金

本メルマガ第26号で紹介しました「農山漁村の活性化のための定住等及び地域間交流の促進に関する法律（農山漁村活性化法）」の中に「農山漁村活性化

プロジェクト支援交付金」が位置付けられていますが、その主な特徴は以下のとおりです。

1. 農・林・水の縦割りなく施設の整備等の各種取組を総合的かつ機動的に支援
2. 都道府県に加え、市町村への直接補助が可能となり、市町村の自主性・主体性が発揮
3. 対象施設間の予算流用や年度間融通により、地域の実情に合わせた整備が可能
4. ワンストップ窓口による手続事務の簡略化
5. 地域の創意工夫による独自の提案メニューも支援

本交付金を活用する場合には、都道府県又は市町村が活性化計画を策定して農林水産大臣に提出していただきます。本交付金は、単に、個別の施設等を整備するのではなく、活性化のためのプロジェクト（企画）を総合的に支援することとしていますので、様々なアイデアを活かした計画をお待ちしています。

なお、先月下旬から都道府県で農山漁村活性化法及び本交付金の説明会を開催中です。本交付金に関する農林水産省HPのアドレスは、

<http://www.maff.go.jp/nouson/kasseika/04koufukin.htm>

となっております。今後、内容を充実していく予定ですので、ぜひご活用ください。

（企画評価課農山漁村地域活性化支援室）

◇ 農地・水・環境保全向上対策の取組

◇ 「愛知県安城市榎前環境保全会」

愛知県安城市南部の榎前町一円を活動の地域とする『榎前環境保全会』は、協定農用地92haで、構成員は、榎前町内会（530戸）と農業者の団体である榎前町農用地利用改善組合（150人）、せせらぎ愛護会（30人）、ボランティアふれあい「えのき」（30人）の各団体です。保全会の代表である会長は、榎前町内会長兼榎前町農用地利用改善組合長が務め、地域の目指すべき方向の最終目標に、『農家・非農家が協力・連携しながら地域を守り、育てていけるような活動を進め、内容を地域住民に広くアピールするために町内会広報誌「ふれあいえのき」に掲載するとともに、地域が一体となって地域振興を図っていくこと』を掲げています。

『榎前環境保全会』の特色ある活動として、水田の取り巻く環境として生き物調査（生物の生息状況の把握）があります。これは、平成18年4月に愛知県農業総合試験場と榎前町内会が排水路と水田を結ぶ施設として設置（生態系に配慮した施設の適正管理）した魚道を活用するもので、その周辺を「めだか

のワークショップ水田」と呼び、地域の子どもたちが5月から8月にかけて生き物調査を行っています。また、今年の4月29日には、その水田に子どもたちが手植えで田植えを実施しました。

これらの活動は、NHK名古屋放送局が夕方6時10分より放映する「ほっとイブニング」で今年の4月から毎月1回程度「榎前レポート」として放映が予定されています。既に、4月23日の「田植えの準備」、5月14日の「魚を呼び込もう」の活動が放映され、はしゃぎつつ元気に動き回る子どもたちの姿がテレビに映し出されていました。この模様は、地元のケーブルテレビ「KATCH」でも、『榎前環境保全会』の農地・水・環境保全向上対策の取組として放映されました。

『榎前環境保全会』の活動状況は、町内会広報誌「ふれあいえのき」で毎月紹介されているとともに、農家と非農家が協力・連携しながら地域コミュニティの活性化を図っていく活動として、今秋には「ひまわりまつり」が計画されています。

=====

◇「岐阜県市之枝地域づくりネットワーク協議会」

岐阜県羽島市南部地域の中央にある市之枝集落を協定範囲とする市之枝地域づくりネットワーク協議会は、市之枝営農組合、市之枝農事改良組合や、桑原輪中土地改良区市之枝工区、市之枝区自治会、中島小学校、消防団、水防団、交通安全協会市之枝支部、市之枝老人クラブなど地区住民のほとんどの団体と、ボランティアグループ、JAはしま営農センター、羽島硬式野球クラブなど地区の公共施設の利用などで関係する団体が加わり、様々なメンバーで構成された活動組織となっています。

市之枝地域づくりネットワーク協議会では、景観形成・生活環境保全の取り組みのなかで、営農組合が転作田にれんげ・ひまわり・コスモスなどを植え、ネットワーク全体では農免道路沿いに花苗を植え水管理や除草を行うなどして、美しい田園環境を創っています。

こうした景観を活かし、地区内外の住民の交流などのイベント「いちのえだ田園フラワーフェスタ」（春のれんげ祭、夏のひまわり祭、秋のコスモス祭の年3回）の開催を計画し、今年のれんげ祭は5月19日～20日に行われました。

当日は晴天にも恵まれ、れんげなどが一面に咲く田んぼを遊覧する花トラクターや、新鮮な野菜の販売などの様々な催しに、羽島市内だけでなく近隣の市町からも多くの人々が会場を訪れました。

このイベントは、協議会を構成するほとんどすべての団体が事前準備や当日の運営などを役割分担して行っていますので、来場者に農地や水路の大切さをPRするだけでなく、地域のつながりを一層深め、活性化をはかる場ともなっ

ています。

市之枝地域づくりネットワーク協議会HPは次をご覧ください。

<http://www.ichinoeda.jp/index.htm>

(地域整備課農地・水・環境保全向上対策室)

◇農村におけるソーシャルキャピタル研究会

平成19年6月6日(水)に第5回「農村におけるソーシャル・キャピタル研究会～社会的なつながりの維持・再生にむけて～」が開催されました。

本研究会は、農村における信頼の伴った社会的なつながりや豊かな人間関係の維持・再生に向けて、国内外の調査や、町長、集落代表等からのヒアリング結果を踏まえ、農村におけるソーシャル・キャピタルの捉え方や役割、政策的意義などについて検討を行い、今後の農村振興における新たな展開の基礎とすることを目的としており、平成18年12月19日(火)の第1回研究会から議論を重ねてきました。

会議に出席した福井農林水産大臣政務官からは、「これからは、単に経済評価だけで日本を発信していくのではなく、農村での人と人とが繋がった暮らし、生き方を文化として発信していくべき。研究会での議論を今後様々な取組に活かしていきたい。」とのコメントがありました。

最終会合となる今回の会議では、研究会のとりまとめとして、農業・農村振興政策においてソーシャル・キャピタルに留意する政策的な意義、これまでの調査・分析結果を踏まえた今後の取組の方向、今後研究を深めていくべき課題等についての議論が行われ、研究会の最終的なとりまとめについては、6月中にも公表する予定です。

○ 本件紹介先

農林水産省農村振興局企画部農村政策課農村整備総合調整室

農村整備計画調整班 電話：03-3502-5946

※「農村におけるソーシャル・キャピタル研究会」の会議資料等については、以下のURLを参照。

http://www.maff.go.jp/www/council/council_cont/nouson_sinkou/social_capital/index.html

(農村政策課農村整備総合調整室)

◇第9回 日本水大賞表彰式開催

平成19年6月1日(金)国際連合大学において、日本水大賞委員会主催の第9回日本水大賞表彰式が開催され、同委員会名誉総裁であらせられる秋篠宮

殿下、同妃両殿下の御臨席を賜るとともに、後援団体である農林水産省からは、山本副大臣が出席し祝辞を述べられました。

水大賞とは、水循環の健全化に寄与し、活動内容が幅広くかつ社会貢献度が高い学校・行政・企業・団体・個人の活動に対して表彰するものである。また、後援団体である農林水産省・国土交通省・環境省・厚生労働省・文部科学省・経済産業省の各省の行政目的に沿ったもので、特に優れた活動に対して各賞大臣賞が授与されます。

本年度の農林水産大臣賞は、兵庫県立播磨農業高等学校稲作研究班の「田園空間ネットワーク～日本酒作りで播磨の自然を育む農法の取り組みについて～」が受賞しました。

本活動は、田園空間の動植物の調査と絶滅危惧種であるベッコウトンボ等の増殖活動を継続しているとともに、有機農法（アイガモ農法）で栽培した酒米で日本酒を製造、その日本酒のラベルにはベッコウトンボのデザインを使用し、地域に水田を取り巻く環境の保護の大切さを啓発する活動であり、表彰式終了後の発表会において、写真等も交えた分かりやすい活動発表を生徒3名が行いました。

本大賞の応募総数は毎年200件程度で、農林水産関係の応募・受賞は多数あり、是非皆さまも応募されてはいかがでしょうか。

日本水大賞の詳細は次のHPをご覧ください。

<http://www.japanriver.or.jp/taisyo/>

(地域計画官)

◇平成19年度「田園自然再生活動コンクール」の応募開始
～自然と共生した農村づくり～

農村地域では、農業の営みを通じて、田んぼや水路、ため池などに様々な生きものが生まれ、豊かな自然が形成されてきました。こうした生きものにぎわう「ふるさとの自然」を保全・再生し、自然と共生した魅力ある農村づくりを進めることが重要となっています。

こうした中、農林水産省では、平成15年度から環境省等と連携し、農村地域において、農業者、地域住民、団体などが協力して取り組んでいる自然環境の保全・再生活動（田園自然再生活動）の中から、優良事例を表彰しています。

田園自然再生活動を行っているグループであれば、農地・水・環境保全向上対策等の事業による支援を受けている方も対象となります。皆様からの多数の応募をお待ちしています。

○応募資格

農業生産との調和を図りながら、生態系の保全等、自然環境の保全・再生活

動に取り組むグループ

○賞の内容

農林水産大臣賞、農村振興局長賞、環境省自然環境局長賞等

○応募締切

平成19年8月3日（金）

○応募先

（社）農村環境整備センター

※応募様式、審査の視点及びこれまでの受賞団体の概要は次のHPをご覧ください。

<http://www.acres.or.jp/Acres/denen/index.htm>

（資源課農村環境保全室）

■ 地域の実態に応じた多様な取組

◇ながくて食と農の広場「あぐりん村」

この4月25日に、愛知万博記念公園に近い愛知県長久手町前熊地区に、株式会社「長久手温泉」（町やJAなどの第三セクター）が運営する都市交流施設「あぐりん村」がオープンしました。

「あぐりん村」は、農のある暮らし・農のあるまちづくりを推進する「田園バレー構想」に取り組む長久手町の田園バレー拠点施設として建設され、地元農家の生産した野菜など地場産品を販売する「農産物直売所」、長久手産の米粉を使った「パン工房」、地元でとれた素材と健康を考えた食材を組み合わせた薬膳料理を提供する「薬膳レストラン」、地元の野菜等を使ったジェラート等を販売する「おやつ工房」等の施設があります。

また、「あぐりん村」では、今後お客様に農産物加工体験などの「体験してもらおう」イベントも予定されています。

「あぐりん村」は、地域農業の活性化や都市住民との交流を促す場として期待されている他、「田園バレー構想」には町内の遊休農地を再び耕そうという狙いもあり、「あぐりん村」が刺激となって、今後農業をやりたいと思う人が増えることにも期待が寄せられています。

○「あぐりん村」のHPは次のサイトをご覧ください。

<http://www.nagakuteonsen.jp/agrin>

（東海農政局農村振興課）

◇「親子等農業体験交流教室 ～“かやぶきの里 美山”を訪ねて～」

都市と農山漁村が近接する特徴を持つ近畿管内においては、都市と農山漁村

の間でお互いの魅力を楽しむような互恵的な関係を構築し、「人・もの・情報」の循環を活発化させることによって、都市住民への「ゆとり」や「やすらぎ」の提供とともに、農山漁村地域における産業の振興等活性化を図ることが重要です。

農業への理解の醸成と農山漁村での生活等の魅力を発信し、都市と農山漁村を双方向で行き交うライフスタイルの実現等、都市と農山漁村の共生・対流の推進を目的に、近畿農政局主催により平成19年3月10日(土) 京都府南丹市美山町※において、都市部の親子と一般者30名を招き、文化伝統に関する講話と、おにぎり作り・餅つき体験等を行う「親子等農業体験交流教室 ～“かやぶきの里 美山”を訪ねて～」を開催しました。当日は快晴の下、元気に餅つきを行い自分でついた餅を美味しく食べる子供たちの姿がありました。

※ 京都市内より約1時間半程度の移動時間で訪れることが出来る南丹市美山町は、かやぶき屋根の建築物が多く残り、重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた「北村集落」等、魅力溢れる農山漁村であり、近畿管内の特徴である都市と農山漁村が近接するといった地域です。

(近畿農政局農村計画部農村振興課)

■ 報告&お知らせ

◇「景観の日」 全国大会が開催されました！

6月1日(金)、ニッショーホール(日本消防会館:港区虎ノ門)において、「日本の景観を良くする国民運動推進会議(会長:桜井正光)」主催の全国大会が、国土交通省、農林水産省、環境省の特別協力のもと、盛大に開催されました。

この大会は、景観法の基本理念の普及、良好な景観形成に関する国民運動の意識啓発を目的として、「景観の日(6月1日)」に開催されるもので、今年度で3回目となります。

大会には景観形成に携わる行政、企業、NPOなど全国から約700人が参加し、農林水産省からは、福井農林水産大臣政務官、中條農村振興局長が出席しました。福井農林水産大臣政務官は来賓として挨拶するとともに、表彰授与においては「第2回美の里(びのさと)づくりコンクール」の各受賞団体の紹介を受け、代表して「椎野あじさい組合(宮崎県美郷町)」に農林水産大臣賞の表彰状を授与されました。

なお、大会の詳細、及び景観の日に関するHPは次をご覧ください。

<http://www.keikankaigi.com/>

【地域計画官】

◇中山間地域フォーラム設立1周年記念シンポジウム開催します

いま大都市圏等と地方との「地域格差」が話題になっていますが、それに劣らず重要なのが地方の都市等と中山間地域との「地域内格差」ではないでしょうか。

中山間地域は、私たち日本人のふるさとであり原風景でもあり、「美しい日本」を形づくる重要な役割を果たしていますが、人口減少時代への突入や市町村の広域合併などでますます厳しい状況にあり、今後2641もの集落が消滅するおそれがあると言われていています。しかし再生に向けた新しい動きも各地に出てきています。

中山間地域フォーラムは、中山間地域に熱い思いを抱く産学民官の有志が連携協力して地域の再生を支援すべく、昨年から活動を始めていますが、このたび設立1周年を記念し、中山間地域の新しい動きを踏まえて国民的な議論を喚起すべく、下記によりシンポジウム「中山間地域再生の最前線」を開催します。

記

中山間地域フォーラム 総会・設立1周年記念シンポジウム

日 時 2007年7月7日(土)
会 場 日本財団 2階会議室
(東京都港区赤坂1-2-2、地下鉄銀座線・南北線 溜池山王駅から5分)
日 程 13:00～ 理事会
13:50～ 総会
14:30～ 設立1周年記念シンポジウム(公開)
テーマ 「中山間地域再生の最前線ー農業とコミュニティを考えるー」

・基調報告

「コミュニティの再生と地域農業の振興」秋田県立大学佐藤了教授

・地域報告

「農村コミュニティの今」秋田県 齊藤了氏、山口県 田村尚志氏

・パネルディスカッション

コーディネーター 明治大学 小田切徳美教授

(会場の皆様のご意見をいただきながら活発な意見交換を行います。)

18:00～ 懇親会(シンポジウム会場と同一階の別室)

参加費 シンポジウム(資料代等)2000円(学生は1000円)、懇親会 5000円

申込み 中山間地域フォーラム事務局（eメール：sanka@chusankan-f.net お問い合わせは、029-838-7607遠藤（農村工学研究所地域計画研究室）まで）

- * シンポジウムには、フォーラム会員でない方の参加も歓迎します。
- * 中山間地域フォーラムでは、中山間地域に熱い思いを抱く産学民官の方々の入会を募集しています。フォーラムの活動状況や入会申込み(会費無料)については、次のHPをご覧ください。

<http://www.chusankan-f.net/>

(地域整備課)

◆◆ 編集後記 ◆◆

関東地方も梅雨入りし蒸し暑い日が続いています。暑さが苦手な私にとっては一年の中で一番嫌な季節ですが、植物などにとってはこれからが新緑の季節です。

この時期田舎では、山から里まで緑のじゅうたんが敷かれたように緑一色となり、都会では見られない素晴らしい景色が私達に癒しを与えてくれます。

もう一月もすると夏休みも始まりますが、今年の夏は自然の中で子どもと一緒にグリーン・ツーリズムを満喫してはいかがですが。私も暑さ対策で密かに避暑地でのグリーン・ツーリズムを計画中です！（S）

◆◆ ご意見をお寄せ下さい ◆◆

本メールマガジンに対する皆さまの声を遠慮なくお寄せください。また、皆さまの地域での活動や取組の紹介などもお願いします。皆さまからのご質問・ご意見、地域の活動などの情報につきましては、可能なかぎり回答あるいは紹介させていただきます。

本メールマガジンに関するご質問・ご意見等については、農林水産省HPの「意見の募集・お問合せ」のサイトから送信をお願いします。その際、様式の「テーマ」欄には“農村振興メルマガ宛”を必ず記載してください。

https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=4

■ 編集発行

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局企画部農村政策課（担当）佐藤

TEL:03-3502-5946 FAX:03-3595-6340
